アメリカ労働運動の新潮流とサンダース現象―最低賃金 15 ドル闘争を中心に－

2017 年 4 月 8 日

大阪経済大学　准教授　伊藤　大一

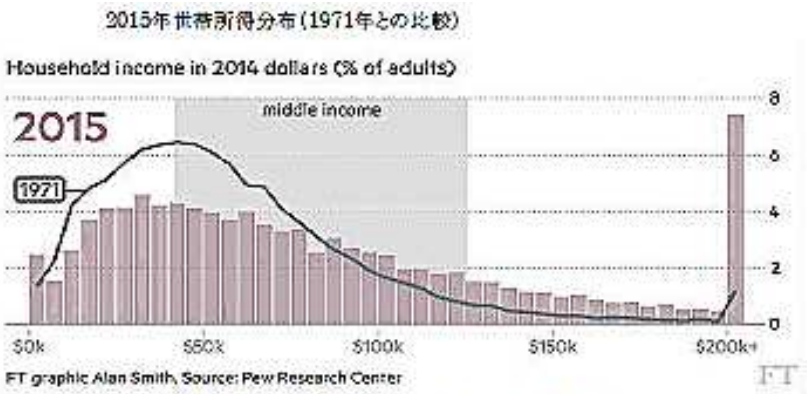
Ⅰ　2016 年アメリカ大統領選挙をどうみるか？

みなさんこんにちは。大阪経済大学の伊藤と申します。私は 2016 年 9 月に帰国しましたが、2015 年の 9 月から 1 年間、アメリカのサンフランシスコ近郊の UC バークレー、カリフォルニア大学バークレー校という所に 1 年間留学していました。その間にアメリカの労働運動の状態を調査してきました。それについて、最賃 15 ドル運動、Fight for $15 と言いますけれど、その状況を今日報告させて頂きます。

やはりどこへ行っても「なぜトランプが勝ったの？」ということを真っ先に聞かれますので、最初にまず選挙の話から言います。簡単に言いますと、共和党トランプが勝ったというよりも、民主党が負けたと言われています。総得票数自体はヒラリーの方が多かったわけですが、アメリカの選挙制度の関係でトランプが大統領になりました。ではトランプはなぜ勝ったのか。なぜ民主党が負けたのかということですけれども、結局、３つの州、ミシガン、ペンシルヴァニア、ウィスコンシン、そしてここにオハイオとフロリダの２つを加えた５州、ここが決戦州と言われていまして、ここを全部トランプが勝ったわけです。それでトランプが大統領になりました。このうち１州か２州でもヒラリーが取っていたら、ヒラリーが大統領でした。

当初、圧倒的にヒラリーが優勢と言われていたのです。ほとんどトランプが勝つなんてことはないと、当日まで言われていました。選挙速報を CNN で見ていましたけれど、最初はヒラリー陣営も余裕で、「これでヒラリー大統領だ」みたいな感じが、だんだん「あれ、あれ、あれ」という形になって、スタジオもシーンと静まり返って、最後はお通夜みたいに、誰も何もしゃべらないという CNN のスタジオになっていました。なぜかと言うと、このミシガン、ペンシルヴァニア、ウィスコンシンというのは、元々民主党の地盤だったのです。負けるはずのない所をひっくり返されたということです。民主党の地盤という意味は、ミシガンが一番わかりやすいですけれど、デトロイトは GM の本社がある所です。GM の本社があって、GM の労働者が大勢いますので、UAW（アメリカ自動車労連）の本拠地です。民主党員、労働組合の組合員が多くて、労働組合の組合員は当然民主党支持だった所です。そこをひっくり返されました。なぜ労働組合の支持基盤であった所が掘り崩されたのかということがポイントです。簡単に言いますと、没落する中間層の問題です。

Ⅱ　没落する中間層－所得再分配の失敗



出所）Sam Fleming and Shawn Donnan [2015] "America's Middle-class Meltdown: Core shrinks to half of US homes," *The Financial Times*, Dec. 10.

図 1　2015 年世帯所得分布

図１は、横軸が所得階層、縦軸が世帯数の割合、＄50ｋというのは５万ドル、年収５万ドル、この辺がアメリカのミドルクラスだと言われています。折れ線グラフが 1971 年、家計を金持ちから順に並べていくと、だいたいこんな形になっていました。最もお金持ちのトップは、わずか 1.7%くらいでした。40 年前のミドルクラスがだんだん減っていって、今どうなったかと言うと、棒グラフが 2015 年です。ここの中間層にいた人たちがつぶれたわけです。この消えた富がどこに行ったかというと、トップが取ったわけです。わずか 1.7%だった人が、40 年経ったら 7%強まで 4 倍くらい増えました。中間層にあったはずの富がトップ層に偏ったのです。中流は没落して、貧困世帯は増えて、裕福な者が増えていきます。これがアメリカの 40 年間に起こった流れです。

では没落した人は誰なのか。まさに UAW に結集し、自動車を作り、アメリカ中産階級を作っていった人たちが没落していったのです。わかりやすく言うと、私の父の代は高度経済成長ですから、仕事なんかいくらでもあります。そして結婚して、家を作って、子供を作り、子供にはこう言うわけです。「大学に行け。そして公務員になりなさい。」それが私の父たちの世代でした。高度経済成長で豊かな世代を作って、日本の民主主義社会を担ってきた団塊の世代が築いた財産、それがどんどん没落していき、その子どもたち、私たちの世代にフリーター問題が出てきます。正社員になれない。30 歳過ぎても正社員になれなかったら、一生正社員になれない確率も高まってきます。これがアメリカでも起きているわけです。

ではこんな時代を作ったのは誰なのかという問題です。簡単に言うと、誰が民主党の支持層から離れたのか。それは「没落した白人労働者層」と「没落するのではないかと怯える白人労働者層」です。なぜ工場労働者の仕事が失われたのか。NAFTA です。90 年代前半に、アメリカは NAFTA でメキシコとカナダと経済協定を結びます。それによって、アメリカのデトロイトにある工場を閉鎖して、メキシコに工場を移します。そこで働いていた人たちは失業します。いったい誰が NAFTA を作ったのか。クリントンです。クリントン大統領のときのファーストレディは、ヒラリー・クリントンです。それによって工場は移転して、そこで働いていた労働者は職を失いました。同じようにオバマ大統領の時の国務長官、外務大臣がヒラリーです。オバマによってアメリカの格差社会は、マイルドになったかもしれません。オバマがどう評価されているかというと、最初は左翼の間では期待が高かっただけに、「何もできなかった」「私たちの世界は何も変わらなかった」として、期待が高かった分、失望も大きいです。その時の国務長官がヒラリーです。「ヒラリーになぜ俺たちが投票しなきゃいけないの。俺たちの世界をつぶして、俺たちの仕事を奪い、こんな惨めな生活に落とし込んだあいつら。」と言われています、ヒラリーがモルガン、スタンレー、チェース等、アメリカのウォールストリートの大銀行のお金持ちたちが集まった講演会でスピーチをすると、1 回 2 千万円です。「彼女は誰のために政治をするの？彼女は誰のために権力を取ろうとしているの？俺たちのため？いや違う。彼女は大銀行と権力者と自分の栄達のために権力を取ろうとしているじゃないの？なんで俺たちが、そんな人のために投票しなきゃいけないの？」という声が、アメリカ労働者の中で非常に大きくなっていきました。

その時に二人の人物が出てきます。一人は大統領になったトランプ、もう一人はバニー・サンダースです。路線で言うとバニー・サンダースが社会民主主義路線です。そしてトランプをどう評価するかというのは、非常に難しいです。トランプは、「没落する恐怖」を背景にして、エスタブリッシュメント（エリート、大銀行とか）への反発を政治動員します。そして排外主義的色彩、分かりやすい敵は不法移民です。こういう言い方になります。「みなさんが惨めな生活で、低賃金で二つも三つも仕事をする。これからも仕事があるのかどうか不安に思う。その不安に思う気持ちはどこから出ているのか。みなさんをこの世界からのけ者にし、みなさんの経済状況を悪くしようとしている奴は、不法移民だ。あいつらがあなたたちの仕事を奪う。あいつらがいるからあなたたちの

給料が下がる。不法移民は法律を犯してアメリカに来ている。メキシコに追い返せ。メキシコに壁を作れ。」と言って誘惑するわけです。これは効きます。身近な敵が必要です。それを非常に煽ります。これをネオ・ナショナリズムと言う人もいます。最初トランプが大統領になった時は、そう過激なことを言うのは最初だけで、実際はしっかりしたビジネスマンだから現実的な政治家になると言った人もいました。結果から見ると、最悪の大統領になりつつあるということです。シリア空爆しました。一体、この後、世界はどうなっていくのか。これは非常に不安定な、全く予想がつかない状況なのは間違いありません。

一方、選挙には勝てなかったですが、もう一つわれわれがお手本とするべき道、バニー・サンダースが代表する社会民主主義路線、所得再分配を目的にした経済政策、わかりやすく言うと、2009年に日本の民主党が政権とったときに、小沢一郎のスローガンが「国民の生活が第一」です。これは社会民主主義路線です。「日本を取り戻せ、ついでに教育勅語も戦前も取り戻せ」という安倍さんとは全く違います。「国民の生活が第一」、児童手当、子ども手当を作ります、社会保障も充実させます、それが社会民主主義路線です。ただバニー・サンダースも分かりやすい敵はエスタブリッシュメントです。バニー・サンダースはこんな形で演説します。実は言い方はトランプと非常に似ていて、「なぜみなさんが低賃金で苦しまなければならないのか。なぜこの豊かなアメリカで二つの仕事、三つの仕事を掛け持ちしないと生活できないのか。それは大銀行の奴らが富を独り占めしているからだ。あいつらに課税して、あそこから富を引き出そう。」というのがバニー・サンダースです。実は二人ともポピュリズムと言われています。右からのポピュリズムと左からのポピュリズム、このポピュリズムというものをどう評価するかというのは、非常に難しいところです。労働組合も運動なので、社会運動をどう作るのか、ポピュリズムとして多くの人の心をどうやってつかむのか、この辺は後でお話したいと思います。

Ⅲ　アメリカ労働運動の現状

さてそれでは、アメリカ労働運動の現状について話していきたいと思います。アメリカは労働組合の組織率が、民間部門も公務部門もあわせて11%と言われています。民間部門は6%。日本の全体の労働組合組織率は17.4%ですので、実はアメリカの方が労働組合の組織率が低いわけです。アメリカ労働運動の長期衰退傾向は変わっていません。うまくいっていません。なぜ衰退に歯止めがかからないかというと、アメリカではビジネスユニオニズムと呼ばれますけれども、ビジネスユニオニズムとは何かというと、今在籍している組合員に対するサービス提供を重視する組合、わかりやすく言うと正社員組合、正社員の相手だけをしているというのが、このビジネスユニオニズムだと思ってください。例として年金基金運用があります。悪くなると腐敗組合、昔のチームスターユニオンってありますけれど、ラスベガスというカジノの都を作ったのが労働組合です。日本と年金制度が違っていて、労働組合が毎月の年金掛け金を預かりますが、その運用先がカジノだったのです。砂漠の真ん中にホテルを作り、そこで収益を上げて、それが年をとった時の年金ファンドになっています。チームスターユニオンは、トラック運転手、飛行機のパイロット、そういう人たちを組織していた組合ですが、実は今このチームスターユニオンで大改革に成功して、全然違う組合になりました。ドライバーの組織化に成功して「低賃金労働者のために闘おう」と、レイバーノーツの大会でチームスターユニオンの代表が挨拶しましたので、時代は変わったと驚きました。

なぜアメリカで労働組合を作るのが困難かというと、何と言ってもアメリカ労働法の不備です。日本的に言うと労働局みたいな機関の下で選挙をして、そこで50%を超えたら全員が組合員になります。50%いかなかったら組合は作れないというのが、基本的なアメリカ労働法の労働組合の作り方です。作るのに選挙を通して5年ぐらいかかります。その間、労働者を解雇してもいいわけです。

日本だったら不当労働行為として禁止されていることをしても良いし、いわゆるユニオンバスターズといって、専門のコンサルタントを雇ってくることもします。一番たちが悪いのはマクドナルドとディズニーとウォールマートと言われています。マクドナルドは、そのレストランの中で組合ができそうになると、そのレストランを潰して、横に新しいマクドナルドを作ります。それで組合に賛成したり、シンパシーのある人は雇わないということを平気でします。「日本の労働法はどうしてそんなに素晴らしいんだ」ということを、アメリカの活動家たち、大学教員に聞かれましたけれど、「君らに負けたからだよ」と答えました。日本占領したGHQのブレーンが、いわゆるニューディーラーと呼ばれていまして、ニューディール政策を作った民主党左派の人たちです。アメリカでできなかったことを日本でやったのが日本の労働法であって、日本の労働法というのは非常に労働者の権利を守る法律です。ただそれを労働者自身が使いこなしているのかという問題はあります。

Ⅳ　アメリカ労働運動の新潮流

その中でもアメリカ労働運動の新潮流として注目を集めているのが、社会運動的労働運動（Social Movement Unionism：SMU）と言われます。労働組合の目的を組織の維持ではなく「社会正義の実現」そのための組織拡大を目的とした運動、これを目的にしたのがSocial Movement Unionismだと呼ばれています。組織化の対象を、これまでかえりみられてこなかった女性、マイノリティ、低賃金労働者などへ拡大する。そのために企業だけではなく、NGO、地域コミュニティ、宗教コミュニティとの連帯、そしてオバマを大統領に押し上げたと言われるコミュニティオーガナイズという技法を使いながら、新しい組織化をしていこうというものです。なぜこれが注目を集めてきたのかというと、アメリカの労働運動が行き詰まっている中で、このままでは駄目だとなって、最も先鋭化した、トライ・アンド・エラーで激しく活動している所に注目が集まってきています。労働組合のルネッサンス、労働組合のリバイタル、再活性化と言いますけれども、それができるかどうかということが注目を集めている理由です。

代表的な社会運動的労働運動が「ジャニターに正義を」、ジャニターというのはビルの清掃の人たちです。そしてFight For $15(FF15)、ファーストフード労働者最低賃金15ドル運動です。労働組合はSEIUが主にやっています。そしてシカゴ教師組合、ここが最も教師の労働組合では成功していると言われています。そしてベッドメイキングなどのホテル労働者の組織化、ここもロサンゼルスです。主に使う戦術が、直接行動主義（disrupt）、かく乱させるとか、混乱させるとか、引っ掻き回すとか、そういう意味ですけれども、disrupt戦術、市民的不服従です。マスコミなどの耳目を集めることが目的で、そのための訓練をします。カリフォルニア大学ロサンゼルス校に世界最大のレイバーセンターがあります。そのレイバーセンターはどういう活動をしているのかというと、直接行動主義とか社会運動的労働運動の実践をしています。私が行っていたUCバークレーの方はレイバーセンターはありますけれど、むしろ調査とか、非常に学術的な要素が強い所でした。一方ロサンゼルスは、非常に実践的なことをしています。有名なケント・ウォンという中国系の教員がいて、その人が仕切っています。ロサンゼルスはアメリカ第2の都市で、ものすごく大きくて、そして人種的多様性もいっぱいあり、非常に多くの問題を抱えています。

Fight for ＄15、最賃15ドル運動は、どんな形で行われているのか。例えばオークランドの都市の一角、中心部のマクドナルドをターゲットにして、そこの前で2時間ほど営業停止に追い込み、道路を占拠します。もちろん警察が来て交通整理をしますけれど、その前でSEIUの北カリフォルニアのヘッドが演説したりしながら、マクドナルドを営業停止に追い込みます。ある程度スピーチが終わると、突撃隊が突撃します。マクドナルドの中に40人から50人のデモ隊の一部が突撃してマクドナルドを占拠し、営業停止に追い込みます。テレビカメラが来ています。これが夕方6時か

らニュースで流れるわけです。カリフォルニアでも多くの都市でも、サンフランシスコ、そしてオークランドでも、こういう形の運動を世界一斉行動としてやりました。そしてすべてのテレビ局が、この日のニュースとして流します。労働組合は数が少なく、組織率が低いので、その人たちが社会に強いアピールをしようとした場合、メディアを使います。そうなるとメディアが好む、ないしはメディアにどういうふうに取り上げられるのかということを考えて行動する、これがまさに直接行動主義です。こういう派手なパーフォーマンスをするという側面もありますが、最賃を上げようという署名活動もしています。どういうふうにして最賃が上がるかというと、いわゆる公契約条例みたいな形です。議会に請願をして、最賃を上げてきていました。ドブ板という言い方は変ですけれど、派手な活動ばかりしていると理解する人もいますけれど、地道な活動もしているわけです。日々の活動の中で、年に数回、集中的にアクティブな活動をするということです。

V　サンダース現象の背後にあるもの

なぜバニー・サンダースみたいな人が高い支持を受けたのかということですが、バニー・サンダースの公約の第一は最賃 15 ドルです。実は SEIU はバニーではなくてヒラリーの支持母体なのです。サンダースの公約は①最賃 15 ドルの実現、②公立大学学費無料化、③医療保険改革です。この公約を見ると、バニー・サンダースというのは社会民主主義者でアメリカに正義をもたらしてと思うかもしれませんけれど、見事なまでに経済主義なのです。掲げるのは経済主義ですけれど、バニー・サンダースの選挙運動自体は、正義（ジャスティス）というものを非常に重要して、演説も社会的公正を求めるという言葉を非常に使います。しかし選挙運動として前面に出しているのは、経済的要求なのです。これをどう考えるかです。既存秩序の破壊者、エスタブリッシュメントの象徴はヒラリー・クリントンだということで、バニー・サンダースはヒラリーと民主党の候補者を争っていましたので、最も選挙中に攻撃したのはヒラリー・クリントンです。なぜこんな経済的な要望、公約を掲げることが受けて、多くの人に支持されたのか。アメリカの労働者の実態というのはどうだったのかということを話していきたいと思います。

アメリカの労働者の実態、状態を見るときに、最も見なければいけないものは家賃です。アメリカの 1 ベッドルーム（1 LDK）の家賃（1 ヶ月分）、トップ 10 は以下の通りです。1 位　サンフランシスコ　＄3,500　約 35 万円（1 ドル＝100 円計算）、2 位　ニューヨーク　＄3,100　約 31 万円、3 位　ボストン　＄2,230　約 22 万円、4 位　サンホゼ　＄2,180　約 22 万円、オークランド　8 位　＄1,850　約 19 万円、9 位　ロサンゼルス　＄1,750　約 18 万円、シアトル　10 位　＄1,550　約 16 万円です。私が住んでいたのはオークランドのベイエリアと呼ばれる所です。私は妻と子供を連れて家族で行ったので、2 ベッドルームに住んでいました。サンフランシスコから車で 40 分くらいの所に住んでいたのですが、家賃は月 2,700 ドル、27 万円、1 ドル 125 円だと 33 万円です。なぜこんな値段がつくかというと、ここはシリコンバレーがあります。わかりやすく言うと、グーグル、アップルの本社があります。UC バークレーないしはスタンフォード大学を出て、アップルないしはグーグルに就職したら初任給 1,000 万円超えます。そこから独立して自分の会社を起こして、うまく当てただけでも何億円、何十億円の資産ができます。もちろん株式ですので分散投資します。その株式のうちの何割かを売って、不動産投資に向けます。対象になるのはサンフランシスコなので、サンフランシスコは家賃が下がらないわけです。

次に学費の問題です。ニューヨーク州立大学というのは、マンモス大学ですけれども、学費 9 ヶ月分、ニューヨーク州住民は年間約 80 万円、ニューヨーク州以外の学生は年間約 180 万円です。UC バークレーは、カリフォルニアの住民で年間約 130 万円、カリフォルニア以外の住民で年間約 380 万円、これに寮とか諸経費が入りますので 600 万円くらいです。1 年 600 万円、4 年で 2,400

万円払えるかという問題です。スタンフォード大学は私立大学です。学費が 470 万円、寮費諸々込みで 700 万円、4 年間で 3,200 万円です。日本と違ってスタンフォードとかは奨学金が充実しているので、実際の負担は 100 万円くらいと言われています。とはいえアメリカの学費は親ではなくて学生が払います。スチューデントローンを組んで卒業した後に払うという形です。スタンフォード大学を出ると、その仲間のネットワークに入れます。1 年間 700 万円、4 年間で 3,200 万円の学費を払っても、初任給 1,000 万円超えますから返せるわけです。

次に医療保険代です。企業のフリンジ・ベネフィットの対象者と非対象者、わかりやすく言うと、アメリカでは企業の正社員になると、企業が保険に入れてくれて労使折半です。非正社員ないしは低賃金労働者はこれに入れてもらえないということです。いくらかということですけれども、ニューヨーク・フリーランサーズ組合というものがありまして、フリーランサーというのは自営業者ですので、数万人集まって入るから値引きしてくれと言うために、こういうのを作っていますけれど、労働者一人当たり月額 560 ドルから 230 ドルです。なぜ違いがあるかというと、入っている保険によって、どこまで治療できるかが決まっているわけです。私は子どもがいるので、一番いい保険に入ろうと思って、一人 330 ドル、3 家族 3 人で 1,100 ドルなので月 11 万円です。3 ヶ月ごとに見直しがあって、一番高かった時は月 18 万円でした。インフルエンザの予防接種を子どもに打ったのですが、保険が利いて 110 ドル、窓口負担 1 万 1 千円でした。さらに歯医者、眼科、耳鼻科はカバーされませんので、別の保険に入らなければいけません。

ここまで言うとわかると思いますけど、最賃 15 ドル、時給 1,500 円って高いですか？安いですか？家賃 33 万円に住む世界ですよ。もう少し衝撃的なことを言うと、私たちは日本とアメリカはほぼ同じような経済水準だと思っています。日本も物価が高いし、20 年前からそう思っていましたけれど、今はもう違います。この 20 年間で日本は成長しなかったわけですが、アメリカは経済成長を続けました。1995 年の GDP 比をみると、日本を 1 としたらアメリカは 1.4 です。20 年前は 1.4 倍でした。今は日本を 1 としたら、アメリカは 4 です。4 倍に開きました。もう一つ厄介なことを言うと、中国は 20 年前は日本の 1/7、はるかに下でしたけれど、今は日本を 1 としたら中国の GDP は 2.2 倍です。わかりやすく言うと、日本人がアメリカに行くということは、ベトナムの人が日本に来たみたいな感じです。そんな差が開いています。そういう世界がアメリカで、そこでアメリカの FF15（Fight for $15）が成立しているということです。

Ⅵ　FF15 をはじめとする運動

アメリカ最低賃金は 3 層構造になっています。一つは連邦最賃です。連邦最賃というのはアメリカ全土に適用される最低賃金です。これが時給 7.25 ドル、約 725 円、年収約 170 万円になります。もう一つが州最低賃金、これは各州によって異なるものです。アメリカの最賃運動を引っ張っているのは、3 番目の各都市の最低賃金です。この 3 つの中で一番高いものが適用されます。

ワシントン州のシータック市、シアトル市、カリフォルニア州のサンフランシスコ市、ロサンゼルス市といった市が、まず最低賃金 15 ドルを条例で決めます。選挙人名簿に登録した人たちに請願権があって、その 1/6 の署名を集めて議会に請願をかけます。そして各市の市議会で通ったら、この最低賃金が市の最低賃金になります。そうなると連邦、州、各都市、それで一番高いものが適用されるので、各都市の時給 15 ドルが適用されるという形になります。それで各市が上げてくるのに従って、州知事、カリフォルニア州の州知事ないしはニューヨーク州の州知事が州全体の最低賃金を 15 ドルに引き上げるということを決定します。そうすると州最賃が上がります。そしてカリフォルニア、ニューヨーク、オレゴン、各州毎に最低賃金が上がってきましたので、いよいよ連邦最賃が 10 数年ぶりに 7.25 ドルから引き上げられるかと思われていたところに、トランプが大統

領になりましたので、引き上げられることはありません。

FF15 とオキュパイ運動、Fight for $15、最低賃金 15 ドル運動というのは、どういうふうにして生まれたのかということですけれど、全米各都市で最低賃金引き上げの原動力になっているのが FF15 で、現在、「ファーストフード世界同時アクションへ」という運動を行っています。マクドナルドをターゲットにして、労働運動を作っています。この労働運動のスタイルというのは、どこから出てきたのかというと、2011 年 9 月、オキュパイ運動が勃発します。「We are the 99%」 これがスローガンになります。同じ時期に、SEIU（サービス労働者組合）がニューヨークでファーストフード労働者の組織化をしている最中でした。その時、労働組合活動家、オキュパイの活動家、地域コミュニティ活動家、宗教コミュニティ活動家との連携をしていて、その中で生み出されたのが Fight for $15 の直接行動主義です。日本的文脈で言うと、「年越し派遣村」で日比谷公園に集まりました。どういうふうに戦術的に評価されるかというと、貧困の可視化と言いますけれど、どこに貧困があり、誰が首になったかを、目に見えるようにして、テレビに映そう、日本国中に示そうという戦術なのです。それと同じようにオキュパイ運動も、「ウォールストリートは税金で救済されたけれど、リーマンショックによって僕らは首になって、家を失い、すべてを失った。」「この格差は何だ、ウォールストリートを占拠しよう、首になったのは我々だ。」ということで可視化したわけです。これが直接行動主義です。だから可視化するために、派手なパーフォーマンスで注目を集めて、マスコミを集めて、多くの社会に直接訴えるわけです。アメリカで労働組合を作るのは非常に困難です。団体交渉で解決できません。そういう条件の下で生み出された戦術が直接行動主義であって、オキュパイ運動に影響を受けたということです。そのオキュパイ運動の活動家たちは、どういう人たちかというと、学生運動の活動家、平和運動の活動家などで、どこに政治的に所属したかというと、バニー・サンダースの選挙母体になるわけです。FF15 だけではなくて、バニー・サンダースの支持者集会のスタイルとはどんなものかということも見ていきたいと思います。

4 月 1 日にレイバーノーツの大会にあわせて、シカゴで行われたのが、シカゴ・ティーチャーズユニオンのストライキ行動です。シカゴ・ティーチャーズユニオンは、州知事が補助金を減らして、教師を首にして、いくつかの学校を統廃合しようとしていることに反対して、教師と父母と子どもたちが一致団結して、知事に立ち向かうという運動をしています。知事を包囲し、市長を包囲し、そしてリコールにまで発展させたという、最もアメリカでうまくいっているのがシカゴ・ティーチャーズユニオンだと言われています。この日はレイバーノーツに合わせたので、全世界動員のため、テレビ局が来ていました。これが必ず映像になります。テレビにどういうふうにして映るのか、これを真面目に研究しています。

誰が喋るのか、その時、後ろには誰がいるのか、人種構成をどうするのか、こういった訓練を UCLA レイバーセンターがします。市民的不服従と言って、座り込みをずっとやっていくと最終的に逮捕されます。その時に、逮捕される人と、周りで囃したてる人と、逮捕される人がいかに勇敢に闘っているかをテレビカメラにどういうふうに撮ってもらうかの訓練をしていました。逮捕される人は不服従、無抵抗、日本で言うと沖縄の高江みたいな形です。警察官が非常に強引に逮捕する中で、周りの人たちが拍手して盛り上げながら送り出すという、それを訓練しています。まさに直接行動主義です。そして逮捕される瞬間というのは、マスコミ的には絵になる、放映に向くわけです。その時にどういうふうな絵を撮られるか、どういう絵を撮らせるのか、そういうことを考えています。また全世界動員は別ですけれど、アメリカの労働運動だってそんなに人がいないので、あちこちで同じことをすると、一つのマクドナルドにさける人数が減ってしまいます。そうなると、盛り上がっているように見えないので、ターゲッティング化、あそこのマクドナルドと決めて、そこに人を集めます。逆に言うと、毎月最低賃金行動の日とかは作らないです。マンネリ化するし、

毎月やると重なってしまい勢力が分散されます。なるべく集中化させるために、年に数回、そこでどういうふうなデモンストレーションをするのか、どういうふうなテレビカメラを呼ぶのか、それを戦術的に考える、これが直接行動主義です。

それから、バニー・サンダースの支持者集会では、マーチングバンドが午前中、オークランド市内を練り歩いて、最終的に会場に来て、集会を開始します。アメリカの選挙活動と一番雰囲気が近いのは、おそらく反原発運動、反原連の金曜日の官邸前行動です。ドラム隊が出るように、運動のパターンが祝祭的、お祭り的です。オープニングが終わった後、集会が始まって、各人のスピーチになります。その時のスピーチは、どんな標語かと言いますと、「健康保険は人間の権利である」「スチューデントローンをやめてくれ」、こんな形で支持者集会が始まります。集まっている人は、人種構成で見ると、白人が多いです。バニー・サンダースは一昨年民主党に入党して 1 年です。それまでは独立系候補として活動していて、大統領選挙の候補になるために民主党に入ったということです。民主党の中の支持率は台風の目になりましたけれど、結果的にはヒラリーに勝てませんでした。小さい州では勝ちましたけれど、カリフォルニア、ニューヨーク等、大きな州では勝てませんでした。言われているのがラティーノ、黒人とか、そういう人たちに対する浸透が足りないということです。バニー・サンダース自身、ユダヤ系で、シカゴ大学の学生の時に、ベトナム反戦運動で逮捕されているという筋金入りの活動家ですが、黒人とかラティーノの人たちには知名度は低かったということが言われています。このバニー・サンダースの支持母体になったのが、オキュパイ運動の活動家です。この人たちが支持者としてバニー・サンダースの運動を盛り上げていったということです。これが FF15 のもう一つの側面です。FF15 というのはオキュパイ運動に非常に強く影響を受けて、実践的な方針として定着しているということです。

FF15 以外の運動として、「われわれのウォールマート」、低価格サプライチェーンでの労働運動ですけれど、労働組合組織化を目的にしていません。ウォールマートを多くのアクターによって監視します。なぜかと言うと、ウォールマートというのは反組合的な企業なので、組合を作れません。だから組合を作るのではなくて、ウォールマートに社会的関心を集める、そういう運動方針をとっています。

Ⅶ　労働組合再活性化の条件

キム・ボスという、私のバークレーの指導教員だった人ですけれど、2000 年に『官僚制という鉄の掟を打ち破れ』という有名な論文を書いています。これは北カリフォルニアの労働組合 14 組合に活動家インタビューして、うまくいっている組合、リバイタルしている組合とリバイタルしていない組合、そこを比較して、いったい何が違うのかということを書いた有名な論文です。再活性化する条件、うまくいっている条件の一つは、新しいリーダーを生み出す政治的危機です。政治的危機というのは、組合員がどんどん減って、何十年後には組合がなくなってしまうということで、これを打開するために新しい活動方針を考えます。これまでのように組合プロパーの人が、去年これをやったから今年もこれをやりますではなくて、全く違う活動方針が出てきます。それはどこから出てくるのか、誰が出してくるのかというと、新しいリーダーによってもたらされます。では新しいリーダーというのは何なのかというと、フェミニズム運動、LGBT 運動、平和・学生運動の活動経験を有しているリーダーなどです。つまり若いときから労働組合の専従として採用されて、労働組合ばかりやっている人ではなくて、平和運動とか学生運動とかフェミニズム運動から労働組合活動家が登用されるということです。従来の中産階級を対象とした組織化だけではなくて、女性、マイノリティ、低賃金労働者への組織拡大、こういうことを誰ができたかというと、労働組合のプロパーの中から生まれたわけではないということです。それがまさにオキュパイウォールストリー

ト運動の活動家が労働組合運動に転進する形で生まれたわけです。

地方ローカルだけでなく、中央組合からのサポート、つまり全労連に相当する組織が、そういう方針を出したということです。地方ローカル、末端組合がそう考えただけではなくて、中央からのサポートがあったということです。もう一つ特徴的なのは、女性が活躍している組合は活性化しています。女性って、こいつは相手にしても無駄と思ったらいなくなってしまう。我慢してここは黙っていれば、そのうち偉くなってイニシアチブをとれるぞというのは男性です。大体幹部のほうに行くと男性ばかりで、粘土層と言いますけれど、あらゆる水を通さない、新しい方針が出ても、そんなのは駄目と言うため、粘土と呼ばれるわけです。逆に女性が新しい方針とか、そういうのを持ってきて、それを受け入れる度量がある組合は活性化し始めると言われています。

Ⅷ　日本の労働運動への視座

こういったアメリカの労働運動を日本の労働運動への視座として、どう考えるべきでしょうか。『戦略』と『戦術』の区別、『目的』と『手段』の区別というのは非常に大事だと思っています。Disrupt 戦術とデモンストレーションの評価ですけれど、アメリカ流の戦術というものをどう評価したら良いのか、われわれは何を学ぶべきか、ということです。現時点で私が思っていることは、「普遍的に正しい『戦略』『目的』はあっても、普遍的に正しい『戦術』『手段』はない」ということです。『戦術』『手段』というのは、その時の国ごと、政治的、法的、イデオロギー的状況によって左右されるのであって、団体交渉権を獲得できない、労働組合の組織を作るのが非常に困難なアメリカにおいて発達したのが、Disrupt 直接行動主義であって、その諸条件の下で生まれたのが、このアメリカの労働運動の『戦術』でした。では正しい『戦術』というのは、どういうふうにしてできるのかというと、正しい『戦術』は、Try and Error でしか見出せないということです。結果的に正しかった『戦術』が、後付で正しい『戦術』になります。労働組合で赤いハチマキにのぼり旗で「エイエイオー」っていうのは、高度経済成長を背景にした私の父たちの時に作られたスタイルです。今の労働組合運動のスタイルに非常に強い影響を及ぼしています。だけどそれは高度経済成長という中でできたスタイルであって、21 世紀にそのスタイルが正しいかと言われたら、おそらく正しくない。それは時代によって『戦術』は変わってくるからです。古い『戦術』の採用を頑迷に正しいと主張し続ける態度、これは非常に良くないです。これは『戦略』と『戦術』の混同です。『戦術』は『目的化』するということです。いわゆる官僚制、粘土層、昔話とか自慢話ばかりするって、若い活動家に言われるということです。

『戦術』『手段』の『戦略化』『目的化』ということで、逆に今度は直接行動主義をとること自体が目的になる、祝祭的なドラム隊が出てきて、それをすること自体が目的になって、これをすればいいんだということも同じような過ちです。『戦術』が『目的化』してはいけない、『戦略化』してはいけないということです。デモンストレーションというのは日常性の打破であって、アメリカの状況の中で発達したわけであって、デモンストレーションをすること自体が目的になってはいけないし、きちんと署名活動もやっているわけです。そこを無視して、デモカー出して、サウンドデモしてというスタイルをすべきことが目的になっては駄目です。

では労働組合の『戦略』は何なのかということです。ニューヨーク市立大学のステファニ・ルースという人は、次のように言っています。「労働組合組織化を勝ち取るためには、より大きな闘いが必要になるだろう。そのためにも、生活賃金活動家達は広い視野から賃金運動を継続しなければならない。これらは必ずしも貧困への解決策ではなく、労働市場での不安定さの拡大に対する解決策でさえない。より重要なのは、賃金運動を短期間で労働条件を改善するための道具あるいは手段、まさに手段において、労働者と支援者を呼び集める方法として理解されるべきである。」（『労働法

律旬報』No.1858 2016 年）つまり、賃金運動という手段を通して、労働組合を拡大していかなければいけないということです。特に日本の労働法の状況の下では、団体交渉ができるわけです。最低賃金を上げることも大事ですけれど、なぜこれだけでは不十分かというと、ブラック企業と闘えないです。日々の労働のパワハラ、セクハラの被害をどうします？最低賃金を上げて違う企業に移ったほうがいいよと言いますか？労働組合というのは、日本の法律の下では、団体交渉を通して、時には経営者を教育しながら、定着できる職場を作り、その活動を通して労働組合を拡大していくということです。

そして、私が徳島で学んだことは、何も知らない請負労働者が、労働組合の活動家になるのはなぜかというと、労働運動を実践するからです。団交して労働運動の火になめられないと、労働運動の活動家はできません。だから何と言っても労働組合の目的は組織の拡大です。連帯と団結、これが大事なわけです。それを 21 世紀的にうまく適合するための手段として、何をアメリカから学ぶのか。こういうスタイルを取り入れようとか、ここは取り入れないと決めたらいいと思います。それは組合の中で、Try and Error でやってみて、10 個やったら 8 個失敗するかもしれません。8 個失敗したら、「それ見たことか、俺の言うこと聞かんから」と言わないようにします。そういう Try and Error で 2 個の成功を導くためには、8 個の失敗が必要です。若い活動家を、労働組合は暖かく見守ってほしいなと思っております。どうもありがとうございました。

以上